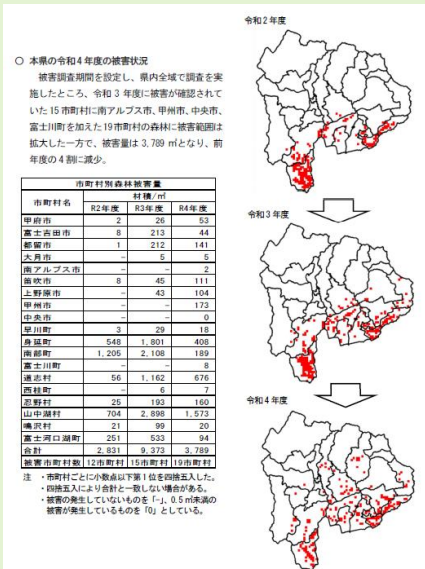


山梨県におけるナラ枯れ被害対策に関する一考察

関東森林管理局 山梨森林管理事務所
森林整備官 荒井 亮一

1. 背景

山梨県で、令和元年度に初めてナラ枯れ被害が確認され、令和2年度に国有林でも初めて確認。以降、県南部を中心に被害が拡大している。現在、峡南・富士東部エリアから甲府盆地より北側へと被害が拡大している。

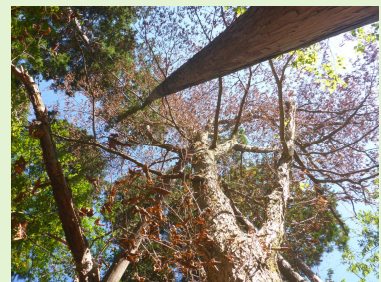


年度	エリア (被害材積 / ㎡)		
	南部町	富士吉田市	甲府市
R1	国有林内では未確認		
R2	293	未確認	未確認
R3	556	25	未確認
R4	143	6	0
R5	31	8	21

国有林内でのナラ枯れ被害状況



山梨県の国有林位置図



ナラ枯れ被害木の様子

カシノナガクイムシ (通称：カシナガ) が媒介するナラ菌によってブナ科の樹木が枯れる。被害木の根元にはカシナガの糞と木の粉が混ざったフラスが出ており、葉は枯れる。

山梨県のナラ枯れ被害状況 (山梨県HPより引用)

2. 取組状況

被害発生当初は、全量処理を目標として、単木で対策を行う立木くん蒸及び粘着シート被覆を行ってきた。しかし被害が拡大するにつれ、全量処理が困難となったため、令和5年度より面的な対策としておとり丸太による誘引捕殺を試験的に行った。山梨県でのおとり丸太の取組事例は僅かであったため、山形大学齊藤客員教授を招き関係自治体との合同での現地検討会及び共同調査を実施した。

3. おとり丸太の防除効果

南部地区に2基設置したおとり丸太 (8㎡/箇所) を調査 (穿孔数調査) したところ合計約14万個体のカシナガが穿入していると推定された。カシナガは、ナラ立木1本あたり1千個体生息すると考えられていることから、約140本のナラ立木の被害を防ぐことができ、被害抑制につながる事が確認できた。(齊藤客員教授より)

おとり丸太設置の様子

健全なナラ材の丸太を設置し、カシナガを誘引する方法。誘引されたカシナガを薬剤や焼却等で駆除することで、周辺のナラ枯れ被害を軽減させる。



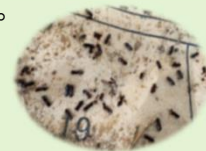
立木くん蒸

被害木に薬剤を注入し、カシナガを駆除する方法。



粘着シート被覆

被害木から成虫になって出てきたカシナガを駆除する方法。



粘着シートに付着したカシナガ

おとり丸太現地検討会の様子



おとり丸太からカシナガが穿入したフラスが出ている

4. 課題と今後の取組

ナラ枯れ被害の拡大を防ぐためには、被害初期に徹底した防除を行う必要がある。単木での対策である立木くん蒸は、防除効果が比較的高いが、1本あたりの作業量が多く、被害木が増えると対策が困難。また、粘着シート被覆は、容易に作業できるが、防除効果が低い。一方で、おとり丸太においては、山梨県では健全なナラ材の流通が少なく、材料の調達が困難であった。いずれの防除対策においても、**被害を完全に防ぐことは困難**であり、各地の被害状況に合わせた防除対策によって**被害を軽減させることが重要**である。既に被害が拡大し激害化した地域では、面的に被害を軽減させるおとり丸太が有効。おとり丸太は、一度行っただけでは効果が薄く、**何年もかけて継続的に行うこと**が被害の縮小化につながる。ナラ枯れ被害に境界はなく、おとり丸太の材料の調達も含め、被害対策に**官民一体となって取り組むことが重要**。